

No.
93第1文型と自動詞(1)
— 原則は他動詞 —

第1文型 (=SV) で用いる動詞のことを

「自動詞」

と呼びます。しかし、そもそも英語の動詞には、その動作が向かう対象があるのが自然です。動作の向かう対象を、英文では、

動詞 + 名詞

のつながりで表現し、動詞の後にくる名詞、つまり動作の向かう対象を、文法用語で「目的語」と呼びます。目的語を後に伴う動詞が「他動詞」です。

動詞の本来の性質から考えても、このつながりが自然なので、**動詞の大半は他動詞であり、それが大原則だ**ということをも確認しておきましょう。

一方、「自動詞」とは、

動詞の後に名詞あり

という大原則に反し、動詞だけで終わっている語のことです。

文字通り、自分だけで自立している、自分だけで完結しているということです。自分の世界を中心に生きている乳幼児の行為、すなわち、

- 「笑う (= smile)」
- 「食べる (= eat)」
- 「走る (= run)」...

といった単語だと考えておけば、ほぼ間違いありません。

No.
94第1文型と自動詞(2)
— 「を」「に」の問題 —

みなさんが間違いやすいのは、「～を...する」と、「を」を使って訳せるのに自動詞である例です。その代表が、

1. ～を考える = think about ～
2. ～を卒業する = graduate from ～

たとえば、

1. 「将来を考える」と「を」を使って訳せるが、
(×) think the future ではなく、
(○) think about the future
2. 「この大学を卒業する」と「を」を使って訳すが、
(×) graduate this university ではなく、
(○) graduate from this university

のように、動詞の後に前置詞 (= about, from) が必要となります。

「自動詞」と「他動詞」の問題は、「を」「に」の問題である

と言い換えることもできます。

原則は他動詞

なので、ある動詞を自動詞として用いるかどうかの判断は、最大限の慎重さをもって行う。これが自動詞について一番大事な注意点です。



- Q 1. 英語の動詞の大半は、自動詞ではなく、○動詞である。 →
2. 「姉は去年高校を卒業した」 My sister graduated high school last year.